

第6回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

◆日時 平成30年8月29日（水）午後2時00分～午後4時20分

◆会場 南あわじ市役所第2別館2階 第5会議室

◆出席者 委員：9名

松坂委員（委員長）、碓委員（副委員長）

伊吹委員、金沢委員、喜田委員、鈴木委員、谷池委員、野上委員、西委員

事務局：4名

総務企画部付部長、ふるさと創生課長及びふるさと創生課担当2名

傍聴者：1名

◆会議の概要

1. 開 会 委員長及び事務局から開会の言葉

2. 協議事項

協議① 地方創生交付金を充当した事業の評価検証について

○ 事務局より協議①について、内容説明等を行った。

【委員の主な質問・意見・評価】

協議①について

①ASAトライアングル（南あわじ・鳴門・東かがわ）を結ぶ、サイクリングツーリズム推進事業

・委員：他県をまたぐ面白い試みではあるが、香川県、徳島県に限らず他府県と連携したイベント等、目に見える形での交流事業はあるのか。

⇒事務局：自転車に関しては、淡路島一周の「アワイチ」、琵琶湖一周の「ピワイチ」、しまなみ海道等、有名な3地域が連携した自転車ツーリズム事業を検討しているところです。

・委員：自転車で県をまたぐのは負担があると思うが、スタンプラリー等を併せて企画することで、活性化が見込めるのではないか。飲食店利用者や宿泊客、インバウンドを誘致するツアーを組む方法はある。

⇒事務局：インバウンド向けとしては、外国人客が淡路島を自転車で回るために使用できるマップがありませんでしたが、南あわじ市の地域おこし協力隊が英語版サイクルマップを作成し、続いて県民局が改めてマップを作成する等、淡路島として、インバウンドを誘致するために取り組んでいます。

- ・委員：電動自転車の貸し出しもあるが、道中で充電切れを起こさないか気にかかる。
過去に充電切れを起こした方が充電できる場所を探して苦労したという話を聞いた。電動自転車は、観光客だけでなく、住民の中でも利用者が多く、充電可能なスポットの周知は大切である。
- ・委員：阪神間から南あわじ市へ入る経路としては、どのような手段が多いのか。明石海峡を船で渡った後に自転車で行くのか、車に自転車を乗せたまま南あわじ市まで来るのか。東浦を起点として自転車に乗る場合、南あわじ市まで来てから、さらに四国方面まで行くとは考えにくい。
⇒事務局：東浦まで車で行き、南あわじ市でご飯を食べたりするケースが多いように見受けられますが、愛好家は数日間という長期間で自転車に乗るケースもあり、各ケースに応じた整備が必要と考えます。
- ・委員：淡路島を走るにあたって、コースはどれくらいの数があるのか。
⇒事務局：A S Aに向けて昨年設定したコースでは、初級者向け、中級者向け、上級者向けと3コースを設けています。
- ・委員：例えば七福神コースやグルメコースといった目的別にコースを設ければ、女性や新しい客層を引き付けることが期待できる。
- ・委員：コースを設けるのではなく、景色のいいスポットやホテルなど自然を感じられるスポットをマップへ記入していく方が、回る方としては楽しめるのではないか。琵琶湖と異なり、山中を見て回ることができるので、走る場所を自由に選択出来る形も良いと思う。
- ・委員：K P I ①3市の交流人口増加数については、目標数の1/10。K P I ②南あわじ・鳴門間を渡った自転車台数についても、1/2以下という結果であるが、達成状況としてはB評価でいいのか。
⇒事務局：K P I ①については、交流人口増加数を設定したものの、交流人口を計るすべがなく、やむをえず把握できる鳴門海峡を渡航する人数を実績値としています。このK P Iで採択されて国の交付金を受けているため、変更することは難しいと思われませんが、今後置き換えることが可能かどうか、独自のK P Iを設定し管理していくことも含めて検討します。
- ・委員：達成状況としてはC評価が妥当。

②未来の担い手確保・育成総合支援事業

- ・委員：K P I ①年間新規就農者数について、平成29年度実績値（15名）が平成28年度実績値（1名）と比較し、大幅に伸びているが理由はあるのか。

⇒事務局：15名の中身としましては、雇用農家、雇用就農、新規就農、Iターン、親元に戻って就農するといったケースがあります。Iターンされる方もいるものの、継続していくことはやはり難しく、親方の下で就農し、給料をもらいながら勉強して、地域に溶け込んでから独立する雇用就農とIターンが多くなっております。

- ・委員：親元での就農が主流ではないのなら、一過性の就農とならないことを望む。親方農家はいい取組だと思うが、親方の負担も大きいので、コーディネーターや仲介役といった間に入る役割が必要だと思われる。

⇒事務局：親方が雇用者となるということは、雇う新規就農者に対する雇用保険が必要であるとか、雇用者としての知識が必要となってきますので、市役所として、研修の実施等でのサポートをしていきたいと考えています。

- ・委員：吉備国際大学学生の進路としてはどれくらいなのか。
- ・委員：淡路島に残る学生が約15名（全体50名）で、そのほとんどがJA等の農業関連の事業所に就職する。就農希望者は1/5～1/6程度。
- ・委員：後継者不足により、手入れが行き届かず放置されている畑等を、地域に農学部があるという強みを生かし、大学や卒業生が地域と連携して対応できるのではないか。
- ・委員：後継者のいない農家と新規就農したい学生とのマッチングはしているのか。
- ・委員：新規就農の支援として実施している。3年生の時期から農家と協議を始め、4年生から農家の下で研修するための予算をとっている。
- ・委員：親方となる農家は、農作業を教えてあげるだけなのか。

⇒事務局：親方自体への給与支払いはありませんが、研修会参加への必要経費等があてられます。親方としては、純粋に弟子として新規就農者を育てるために活動されているところです。新規就農者にとっての困る点としては、車がないことも挙げられており、その不自由の解消について担当課で検討を進めております。

- ・委員：事業として継続していく場合、交付金の対象期間終了後は市の単独予算の中で実施していくのか。

⇒事務局：根幹となる部分については、元々県や国から補助金を得ています。この交付金の対象としている範囲については、事業費としては大きいものではないので持続可能かと考えられます。

- ・委員：達成状況としてはA評価が妥当。

③南あわじ市三力（魅力・味力・見力）発信事業（商工観光課実施分）

- ・委員：生産地ツアーの開催頻度は、どれくらいのものか。
⇒事務局：年に数回の開催と担当課より確認しております。
- ・委員：達成状況としてはA評価が妥当。

④南あわじ市三力（魅力・味力・見力）発信事業（広報情報課実施分）

- ・委員：K P I ①コンテスト等参加者数の達成状況を考慮すると、A評価でよいのか。
⇒事務局：評価について見直します。
- ・委員：単純にフォロワー数を増やすことを目指すなら、住民票を移す時や、ケーブルテレビ加入時等、何かと一緒にすることで改善されるのではないか。フォロワー数が増えない限り、参加者数も伸びてこない。
- ・委員：ホームページの見易さにおいては、淡路3市を比較して、南あわじ市のものが最も見やすいという声を聞いた。
- ・委員：達成状況としてはC評価が妥当。

⑤松帆銅鐸を活用した郷土愛の醸成と地域経済の活性化

- ・委員：K P I ①松帆銅鐸関連商品売上額についてクリアはしているが、平成29年度は商品が出来てすぐであるため、平成30年度以降、リピーターが付くかどうか楽観視はできない。
- ・委員：松帆銅鐸が戻ってくる時期はいつ頃なのか。
⇒事務局：早くて平成31年度、遅ければ平成32年度となるかと思われます。
今後国宝となることがあれば、温湿度や免震装置等、ますます求められる管理用設備のハードルが高くなることが想定されており、保管設備を整備するために、財源として国の交付金を活用するのか今後検討が必要です。
- ・委員：保管予定の場所は、玉青館となるのか。
⇒事務局：市内の美術館としては、玉青館のみであるため、候補となってきます。
- ・委員：建物としても規模が小さく、周辺にほかの観光施設がないことから、立地面としても適しているかと考えにくい。
⇒事務局：淡路島日本遺産という取り組みを進めており、伊弉の沖ノ島では当時の豪族の宝物も出土しており、そういった遺物を絡めた日本遺産としてツーリズムの展開を検討しています。

- ・委員：散発的に新たな場所に観光施設を作るのではなく、既存のイングランドの丘に隣接する形で整備するなど、集約させることも検討が必要である。
- ・委員：集約も大事だが、その場合、交通面の整備も同時に進める必要がある。福良の花火大会をとっても、大渋滞となっている。
- ・委員：達成状況としてはB評価が妥当。

⑥南あわじ市ドローン（U A S）産業育成事業

- ・委員：ドローンを活用し、農薬散布を実施した場合、範囲が想定以上に広がり、周囲にマンション等があれば悪影響を及ぼしたりする危険性もあるのではないかと。
- ⇒事務局：現状、操縦士としての講座で実施しているのは、市内の建築士事業所が測量や現地撮影のために受講しているものです。農薬散布についてはドローンよりはラジコンヘリを使用した実験が進められています。
マンション付近等で飛行させることについては、コンプライアンスとして重要な課題です。現在、航空法は改正されたものの、ドローン飛行を考慮したものとしては不十分な状況であり、南あわじ市としてのコンプライアンスの方針については、市のホームページに掲載しております。
- ・委員：達成状況としてはA評価が妥当。

⑦南あわじを売り出そう地域が元気になる事業

- ・委員：淡路島牛井といった取り組みも以前より勢いがなくなりつつある。サクラマスも重要だが、次の手をまた検討していかなければならない。
- ⇒事務局：淡路島全体としては、現在はサクラマスを拡大させていく方針です。
南あわじ市では三年とらふぐや養殖のハマチなどにも県の補助金を活用していきたいと考えています。淡路島牛井については、観光協会としての取り組みであり、資金の投入等は実施しておらず、今後の活性化の課題でもあります。
- ・委員：「南あわじじゃらん」については、サクラマスの時期に合わせた春用として製作されているが、他の季節号もあるのか。
- ⇒事務局：じゃらんについては、本交付金を活用し、製作を委託したものであり、現状では、他の季節号を発刊する予定はありません。
- ・委員：淡路島は多くの食材に恵まれているが、香川県のうどんのように、柱となるものがない。一事業所に出来ることではないため、行政としてPRする必要があるのではないかと。

⇒事務局：数年前までは、品物や政策等、都市としてのブランドをPRする傾向がありました。淡路島では、新しいブランドを立ち上げることについて積極的で、現在では季節を問わず多くの旬の食材があります。しかし、その中から柱となる食材を選ぶのは一朝一夕にできることではなく、今後の課題とさせていただきます。

- ・委員：達成状況としてはB評価が妥当。

4. その他

- 事務局より、今後の委員会日程について説明を行った。

5. 閉 会

- 閉会にあたり、碓副会長よりごあいさつをいただいた。

以上